

名城大学建築同窓会会報

●発行/2015年4月1日 ●編集/名城大学建築同窓会会報委員会

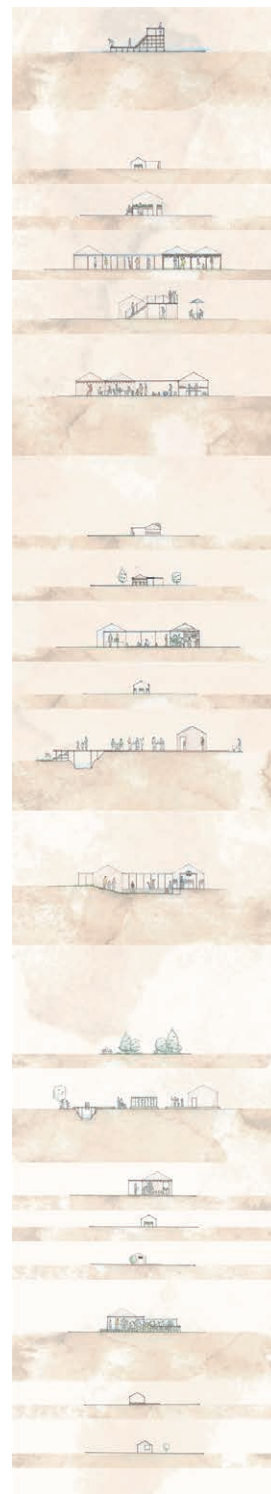
No.143

INDEX

会長・学科長あいさつ	1・2
キャンパスニュース	2
情報交流会	3
支部だより	3
城友会	5
同窓会ニュース	5
建築学科教職員	5
就職情報	6
建築同窓会賞	6
平成25年度事業報告	7
平成25年度決算報告	7
平成25年度会計報告	7
平成26年度事業計画	8
平成26年度予算	8
会則	9
表紙・裏表紙解説	10
平成26年度役員	10



町 人 植物の境界 大藪 颯





建築同窓会会長

石川 豊

(昭和47年卒)

建築同窓会会員の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。又、日頃より同窓会活動に対して格別のご理解、ご支援を賜り誠にありがとうございます。

私は平成26年度より前会長の小木曾さまから引き継ぎ、会長を仰せ付けられました47年卒業の石川と申します。不慣れで未熟ではありますが精一杯務めさせていただく所存でありますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年12月に赤崎勇終身教授がノーベル物理学賞を受賞されました。この受賞ニュースは我々卒業生にとってこの上ない喜びであり、今後の大きな励みになります。

又、昨年11月29日には例年1月の新春情報交換会を、新たな企画のもと天白校舎にて情報交流会として開催しました。今回の企画は同窓会員、建築学科、在学生との交流、交友を深める機会として開催しました。

参加者はOB83名、教員13名、学生39名という今までにない幅広い形で参加いただきました。PR不足、企画内容の充実という課題、反省点はありましたが有意義な情報交流会となりました。

同窓会の存在とは何かと考えたとき、私たちが大学で過ごした時間は人生の土台を作る上で、大学時代を過ごした仲間大切な財産であり建築同窓会はこの絆をつなぐ存在になるかと思えます。そうした意味でも、1年に1回の皆さまと集う機会と会報の発行は大事にしていきたいと考えております。

一方、社会を取り巻く環境は少子高齢化という今までにない状況下に入っている中、名城大学においても将来に向け教育施設の充実、グローバルな人材を育成すべく諸改革を進めております。その実現のために開学90周年事業として募金支援の要請がされています。卒業生の皆さま方におかれましては母校の発展のためこの趣旨をご理解頂きまして何卒、積極的な支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、同窓会会員皆さま方におかれましては益々のご活躍とご多幸を祈念いたしまして私のご挨拶とします。

平成27年3月吉日

学科長あいさつ



建築学科長

高井 宏之

名城大学理工学部建築学科の卒業生・在校生をはじめ、関係者の皆様におかれましては、日々ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より当学科の諸活動に対しご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、一昨年度は建築学科65周年・建築同窓会50周年であり、いくつかの記念事業が行われましたが、本年度も建築同窓会では引き続き活発な取り組みが行われました。具体的には、11月29日(土)の天白校舎での「情報交流会」であり、溝口明則先生の「日本建築学会賞受賞記念講演」、本年度で定年退職の立川剛先生と同研究室OBによるパネルディスパッション、ならびに現役学生を交えての懇親会が開催されました。この新しい企画は隔年開催の予定とのことですが、建築同窓会会員と現役学生との距離を縮めるための新しい試みとして大いに評価できます。

引き続き、上記の一大イベント以外の、昨年度の3つの出来事を紹介します。

第一は、溝口明則先生が上述のように日本建築学会賞を受賞されたことです。これは溝口先生の著書『法隆寺建築の設計技術(鹿島出版会、2012)』が高く評価された結果であり、建築学科教員・同窓生・現役生にとって大変大きな誇りとなりました。

第二は、人事に関することです。まずは理工学部長を務められてきた環境・設備系の吉久光一先生が、来る4月より名城大学学長に就任されることです。建築学科からは初めての学長であり、学科一同大変名誉に感じるとともに、吉久先生の益々のご活躍と名城大学の更なる隆盛を確信します。また、吉久先生は学長就任に伴い一度退職の形となり、また立川先生は上記の通り本年度ご定年を迎えるなど、再来年度より新しい先生を数名迎えることになります。これからの建築学科がどのような姿となるのか、楽しみです。

最後は、昨年度名古屋工業大学に譲った一級建築士の合格者数一位(東海地区)の座を奪還したことです。この実績は大学教育の質の絶対的な評価尺度ではありませんが、当建築学科の看板の一つであり、昨年度この会報で皆様方にご支援をお願いした結果と喜んでいきます。ただ、本年度の全国17位(合格者数41名)という結果は、一昨年とその前年度の11位(55名)には遠く及んでおらず、引き続き当学科OBへの頑張りのお声がけとご支援をお願い致したく、何卒よろしく願い申し上げます。

最後に、同窓会をはじめとする当学科の関係者の方々の、ますますのご発展とご健康を祈念し、学科長の挨拶とさせていただきます。

キャンパスニュース

2015年4月より、これまで理工学部長・大学院理工学研究科長を務められてきた吉久光一先生が、学長に就任されることとなりました。おめでとうございます。建築学科から学長が輩出されたこと大変誇りに思います。この度のご就任、心からお喜び申し上げますとともに、今後ますますのご活躍をお祈りいたします。



▲情報交流会で挨拶される吉久理工学部長

新形式の情報交流会の開催

昨年、2014年11月29日(土)、建築同窓会の「情報交流会」が開催されました。

例年ホテルで1月に開催されてきた「新春情報交流会」を変革して、大学に場所を借り、講演会主体の「情報交流会」として開催されました。ここ数年、参加者の減少の問題と、同窓会費の予算の将来的な展望から、交流会の新たな変革を求める意見も多くありました。一昨年前、この新春情報交流会とは別に、講演会が主体の「大交流会」が谷田先生のご尽力で開催されました。これは現役の学生に向けた、新たな交流会のあり方を我々同窓会に示唆してくれました。今年度の交流会はその会の形式を参考に、同窓生と現役の大学生、そして大学関係者にむけて、講演会が主体の交流会として開催されました。講演会は大きく2部の構成で行われました。1部目は2014年に建築学会賞を受賞された溝口明則教授からの講演で、「法隆寺建築の設計技術、いかに法隆寺の奇蹟を解明し100年の議論を終結したか」と銘打った受賞記念講演でした。我々の配慮不足で、マイクの音声聞き難く皆様には迷惑をかけたが、内容は非常に興味深く久しぶりに楽しく勉強させて頂きました。

次に、構造の立川教授とそのゼミの卒業生、および現役のゼミの学生による講演で、主に東日本大震災のその後の状況、今後改善しなければいけない諸問題等を教えていただきました。いまだに仮設住宅に居住している方が多くいる事、そしてその居住性能の問題は考えさせられました。また現役の学生による、被災地の子供たちへの現在も続けている支援活動の説明があり、これにはその場で、援助金の申し出も有る位に感動させられました。事前にこの交流会のためのポスターと

チラシのデザインを学生から募集しました。応募総数は多くはありませんでしたが、その完成度は高くいいポスターができました。講演会の後はタワー75で、懇親会も開催され、楽しいひと時を過ごして頂きました。

この交流会も形式を限定せず、今後もより有意義な会となる事を模索しております、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。



▲情報交流会ポスター



▲情報交流会会長挨拶



▲情報交流会溝口先生記念品授与



▲情報交流会溝口先生講演



▲情報交流会立川先生講演



▲情報交流会聴講者

支部だより

『岐阜県支部』だより

岐阜県支部 支部長 水谷 武 (昭和34年卒)

平成9年2月23日に設立総会を開催して、今年で18年目を向かえることとなりました。当支部は毎年定時総会を開催しており、今年度の総会は数えて第19回目となります。各会にはそれぞれ数十人の会員が、年に一度の逢瀬を楽しみに集まってきて旧交を温めております。昨年の総会の様子を写真を添えてご紹介します。

平成26年6月26日(木)に岐阜会館にて、来賓に建築同窓会長の石川豊氏、組織委員長丸澤良彦氏を迎えて定時総会を開催しました。懇親会では、同じ釜の飯を食った者同士の和気相合の雰囲気の中で、夜の更けるまで盛り上がっていました。今年も6月に定時総会を開催する予定です。まだ一度も支部の会合に参加したことのない卒業生の皆さん、今年こそ是非出席してみてください。きっと多くの得るものがあると信じます。

名城大学建築同窓会岐阜県支部連絡事務所 清水敏生 TEL.058-323-2012



■『中国支部』だより

中国支部 支部長 中村 正信（昭和41年卒）

（回顧）

2年遅れて1962年の春、建築の世界に憧れて入学した。初登校は下駄履姿で木造の中村校舎でデビューを果たした。運動部の強烈と思える勧誘の洗礼を受けたのが記憶に残っている。4年間の大学生活の中で“設計”を諦め、進むべき道は“建築生産”と決めた。ゼネコンに入社して関西・中国地方を拠点として“工事計画”“現場施工管理”“建築統括”として38年間の会社人生を全うした。あと少しで卒業後50年の節目を向える時に“オール名城大会”の案内を頂き、2月28日の出席を楽しみに待っているところです。同窓生（建築科）との出会いは卒業して7～8年過ぎた頃、設計者と施工者としての立場で、仕事からみの偶然がもたらした。受注した工事が特殊な地下構造だった為施工を考慮した構造変更提案をし、実施打合せを重ねる過程で、相手方の打合せ者の代表が森畑氏といい、名城の先輩であることを知った。森畑氏（設計事務取締役）から山下氏（広島的设计事務所代表）、松本氏（山口的设计事務所代表）の紹介をうけて、広島での“名城・建築”の絆は深まっていった。彼等は校友会・建築会の設立・運営の中心的人物として“オール名城”の中国地区のブランド力の向上にもおおいに貢献された。

（現状）

名城大学建築同窓会中国支部は、1991年発足して今年で24年を迎えるが歳月が経つと共に活気を失いつつある。高年齢化・組織力の弱体化は否め様のない事実だが3月12日に本年度の役員会を開催し、4月には24回目の総会を広島で開催する計画です。昨年の総会には発足時の会員は残念ながら出席が叶わなかったが13名の方々と懇親することができた。

年2回の役員会と総会の開催は最低限のノルマとして名城の絆を保って行く覚悟で取り組んでいます。

■『関西支部』だより

関西支部 支部長 大川 富美治（昭和41年卒）

三寒四温の季節、名城大学卒業生の皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。去年は名城大学教授の赤崎勇先生のノーベル物理学賞受賞により卒業生の皆様もおおいにめでたい事であったでしょう。我々名城大学建築同窓会関西支部では昨年6月1日に和歌山の皆様の御世話により無事総会を開く事が出来、40人程参加してくれました。今年は6月7日奈良にて開催することになっております。会場は奈良ホテルで行いますが、当ホテルは、東京駅駅舎を手がけた辰野金吾と片岡安のコンビが設計を、関西の建築界においては指導的立場にあった河合洗蔵が工事監理をそれぞれ担当するという、建築当時の日本を代表する建築家たちにより建築された建物です。宿泊した著名人には天皇陛下、アルベルト・アインシュタイン、その他多くの方々がおられます。建物見学も予定しておりますのでぜひ関西支部の方々だけでなく他支部の参加を、お待ちしております。

参加希望者連絡先 小巻弘幸 090-1594-7914まで



■『名古屋支部』だより

名古屋支部 支部長 大井 俊明（昭和47年卒）

7月に支部総会開催して早半年が経過しました。支部の現状は、しばられる物がないニュートラルな体制を維持しております。名もなく、力もなく、金もなく、となないなくめ名古屋支部です。しかし大学のお膝下でも有りますので、情報を生かして金の掛からない、現場見学、お花見、観劇等企画して行きたいと考えておりますので情報・連絡等宜しくお願い致します。

個人的に珍しい体験をしてきましたので紹介させて頂きます。何かの参考にでもなれば幸いです。平成26年10月26日～28日まで3日間の修行をしてきました。事の発端は檀家総代をしている真宗大谷派の寺院の住職修習に同行したことでした。全国から25組の住職候補者と総代が京都の東本願寺に集合し研修を受けました。慣れないお経や仏教用語に面くらいましたが、何とか規則正しい起床・清掃・朝参拝・朝食・講義・昼食・講義・勤行・夕食・座談会・入浴・就寝と本当に一日の基本を叩き込まれて、何気なく過ごしている健康のありがたさが身にしみました。住職達はこれからの寺院の経営に頭を悩ませていましたが、総代達は酒もテレビも無い生活に不平ばかり出ていました事は俗世界ばいですね。しかし法話での悩み相談の回答が身につまされましたのが印象深く残りました。金銭欲・性欲・権力欲・食欲と欲望には切がないが、本当は愛が欲しいのではありませんか、との一言で真髓をつかれました。まだ生臭い身の上としては、ドキッとしましたが、それ以後、ささいな事で動揺しなくなりました。これもひとえに物事の本性が理解出来た、たまものかなと思う今日この頃です。別に宗教家になるつもりは有りませんが、何事にもチャレンジして、これからの人生を楽しく過ごせる様、感性を磨いておきたいですね。

『城友会』だより

渡邊 達也（平成5年卒）

城友会は、名古屋市役所に勤務する、名城大学建築学科の卒業生で構成されている同窓会の組織です。この会は、会員の相互の親睦を図り、教養を高めるとともに市政と名城大学同窓会の発展に寄与することを目的にしています。会の規約が、昭和57年に施行されていますので、それから数えますと、約35年の歴史がある会であります。会員数は、数年前までは100名近くいましたが、団塊の世代の先輩たちの退職とともに減少し、平成26年度末では、約70名となっております。今は、新規で入ってくる職員が、名城大学の卒業生であるかどうか、個人情報の観点からも分からないため、実際に何名の方がいるか把握できていないのが現状です。これも時代の流れなのでしょう。

城友会の行事としましては、2年に一度、総会（懇親会）を行っています。総会では、大学の先生を来賓としてお迎えし、最近の先生のご活躍や大学の近況報告についてお話いただき、また、城友会についてもご指導、ご鞭撻をいただいております。平成25年度の総会では、大学を退官され、現在は、建築同窓会担当副会長に就任されています安藤先生と理工学研究科建築学専攻准教授の谷田先生にご来賓としてお招きいたしました。私も、安藤先生のゼミの卒業生でありますので、昔のお話をさせていただき、懐かし楽しいひと時を過ごさせていただきました。また、参加者の皆様も、それぞれの学生時代のお話や職場における業務についての情報交換を行うなど、幅広く親睦を図っています。

今後の城友会の活動についてですが、現在は、同窓生の繋がりがかなり希薄になっています。それは、人との繋がりのための媒体を“同窓会”に求めることなく、自分自身でいろいろと“媒体”を選択できる時代であることも、一つの原因なのでしょう。そのためか幹事のお手伝いや総会に参加していただける方が少なくなり、残念ながら総会の参加者が20名～30名の少数で行っているのが実情です。しかし、今一度考えてみますと、私は、十代・二十代の人生の大切な時期を名城大学で過ごし、その学び舎を卒業したという歩みを、人との繋がりの“重要な媒体”とすることも良いのではないかと思います。また、時代を超え、世代を超えた繋がりを持つことは、先輩や同僚から多くの情報を得ることができ、今後の人生に役立てることもできるのでは…。限られた時間の中、仕事・プライベートなど皆様お忙しいこととは思いますが、是非、“母校への繋がり”を考えてみてはいかがでしょうか。そのようなことを少し考えた、今日この頃でした。

同窓会ニュース

さる平成26年11月29日（土）、名城大学天白キャンパスにて、名城大学建築同窓会情報交流会が開催されました。これは例年、年明けに開催されていた新春情報交換会に変わる新たな催しであり、卒業生、教員、学生たちが一同に集い、情報交換や交友を深める場として企画されました。当日は、今年度、日本建築学会賞を受賞された溝口明則先生の講演会を皮切りに、今年度で退官される立川剛先生コーディネイト、立川剛研究室OBパネラーによるトークセッションを展開しました。最後はタワー75にて懇親会を開き、盛況のうちに終了しました。今後も同様の企画を断続的に催して参りますので、その際にはご参加のほど、よろしくお願い申し上げます。



▲立川先生講演

建築学科教職員

教 授	建 築 計 画	鈴 木 博 志	准 教 授	建 築 構 造	大 塚 貴 弘
〃	建 築 計 画	高 井 宏 之	〃	環 境 計 画	岡 田 恭 明 ○
〃	建 築 構 造	立 川 剛	〃	建 築 計 画	谷 田 真 ○
〃	建 築 材 料	寺 西 浩 司	〃	建 築 材 料	平 岩 隆
〃	歴 史 意 匠	溝 口 明 則	〃	歴 史 意 匠	三 浦 彩 子 ○
〃	建 築 構 造	武 藤 厚	〃	建 築 構 造	宿 里 勝 信 ○
〃	建 築 構 造	村 田 賢 ○	〃	建 築 計 画	柳 沢 究
〃	環 境 計 画	吉 久 光 一	〃	環 境 計 画	吉 永 美 香
准 教 授	建 築 計 画	生 田 京 子			

○印は名城大学卒業生

就職情報

就職・進路関係について

武藤 厚（就職・進路支援委員）

はじめに

本年度の建築及び関連業界の求人状況としては、経済見通しに関する一定の期待感の中、復興需要の全国的な連関、オリンピック関連での都内へのシフト、地域的には名古屋駅前の大規模な建築ラッシュに加え、住宅関連では消費税率増後の需要減の影響が予想の範囲内であったこと等から、全体としては新卒学生への採用意欲は増加傾向となっています。一方、中・長期的な日本経済への見通しへの不安は拭えず、職域による温度差は感じられるものの、設計事務所や住宅産業の設計職、一部官公などからの求人意欲も着実に増えています。全般としては、総合建設業の特に施工管理職への就職は比較的容易で、8月以降でも多くの企業の追加募集がなされる異例の状況となっています。さて、就職後ですが、入社後数年で離職する学生も一定の比率でみられ、建設関連企業では約3割に達していると言われています。その原因は多様ですが、主としてその職種に対する能力不足やコミュニケーション不足などが挙げられます。改めて適性の把握と情報収集を含めた就職活動への早めの取り組みと能力の向上が重要と考えられます。

就職状況

数年来の就職状況としては、前述のように総合建設業が30%前後を占め、最多となっています。職種は施工管理・設備施工管理が主であり、スーパーゼネコンといわれる全国展開の大企業から、東海地区の中堅企業まで幅広く就職しています。今年度の求人も堅調で、多数の企業が大学を求人訪問しており、この職種を希望する学生には比較的就職しやすい状況となっています。住宅産業が20%前後で続いており、この産業の就職率も増加傾向となっています。設計事務所と官公庁は7%前後、建材メーカーなどが5%前後となっています。官公庁への就職希望者はここ数年増加傾向を示していますが、就職者数の増加に至っていません。また、設計事務所を希望する学生を中心に大学院へ進学し、キャリアアップした後の就職を検討する学生が増えています。平成25年度の大学院進学率は約10%となっています。建築学科の全国的な進学率は50%に達しており、今後、進学率は増加していくことが予想されます。

就職活動と就職支援

一般企業への就職活動日程は、現4年/M2までは「3年次の春からの情報収集→12月から具体的な活動→4月から選考・中旬頃までに試験→4月から連休明けに合否決定」が一般的でした。総合建設業では大企業の就職スケジュールが最も早く、少し遅れて準大手、東海地方の企業となっています。住宅産業は比較的広範囲の時期に就職試験が行われていますが、やはり、大企業の就職スケジュールが早いようです。なお報道されているように、3年/M1からは公式な就職活動のスケジュールが、「12月からの広報活動が3月に、4月からの採用選考活動が8月からに変更」となりましたので、大学の対応もそれに伴って後ろに移動となります（学内ガイダンスは6月開始）。この大きな変更について、現在は各企業・学生も「動きを探りながら」の状況となっています。就職活動を始めるにあたり、連絡先等の「入口」として、「リクナビ」や「マイナビ」への登録が一般的になっています。大学に届く求人依頼には、「学校推薦のみ」「学校推薦と自由応募の並立」「自由応募のみ」の3種類があります。「自由応募」が殆どですが、逆に、早期離職者に自由応募の学生が比較的多いことから、学校推薦を求める企業が幾分増加しています。キャリアセンターでは3年/M1を対象に「ガイダンス」「模擬試験」「各種セミナー」等多くの就職支援を行っています。建築学科でも昨年度同様に企業と連携したセミナーを規模を拡大して開催しました。就職活動開始後、キャリアセンターと学科就職委員が就職相談に応じており、幅広く学生の就職活動を支援します。なお、3年/M1/M2の夏季休暇等を利用したインターンシップへの参加も着実に増え、職場体験・情報収集の良い機会になっています。

就職活動への心構え

就職活動では「自分探し」が重要と言われていますが、学生時代には「自分作り」が重要かと思います（私見）。また、建設業では希望の職種と勤務地の両方を満足することが困難な場合も多く、自分の将来的なスタンスを考え、企業研究も積極的に行っていくことも薦めています。

建築同窓会賞

建築同窓会は、学部卒業生及び大学院修了生の優秀者に建築同窓会賞を贈り表彰しています。受賞者は、各研究室が表彰候補者を選出し、学科より同窓会に推薦して決定しました。下記の受賞者には、学位記授与式にて建築同窓会会長より表彰状を授与します。

平成25年度受賞者

伊藤 正樹(三浦研)	畑 中 健太(吉久研)	古田修平+松本康太(寺西研)	水谷 由香里(平岩研)
杉本 達哉(高井研)	小島 功(吉永研)	石原 大揮(宿里研)	久瀬 由依(立川研)
西下昌平+山名史晃(谷田研)	三浦 徳人(武藤研)	杉浦 友哉(柳沢研)	

平成25年度事業報告

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

①総務委員会

- 1) 学内行事の学位記授与式には学生会員に対して援助を実施しました。
- 2) 会議の開催
通常総会 (6/16) 1回
役員会 (4/11、5/21、6/4、9/5、9/30、10/30、12/19、1/10、2/12、3/27) 10回
評議員会 (5/21) 1回
- 3) 慶弔に関する事務を取り行いました。
- 4) 建築同窓会、周年事業への協力支援をしました。
- 5) 卒業30周年ホームカミングディ(12/7) (昭和59年3月卒業) の支援をしました。
- 6) 第19回新春情報交換会 (H26.1.17) への支援をしました。
- 7) 評議員のいない学年に対して、学内と協力し、働きかけをしました。

②財政委員会

- 平成25年11月15日 第1回財政委員会 3名
平成25年12月 2日 第2回財政委員会 5名
平成25年12月 4日 年会費納入案内発送 会員 542通
平成25年12月 6日 年会費納入案内発送 平成22年度卒業生 127通
平成25年12月 6日 年会費納入案内発送 平成23年度卒業生 105通
平成25年12月 6日 年会費納入案内発送 平成24年度卒業生 95通
平成25年12月19日 年会費納入案内発送 平成21年度卒業生 92通
新規永年会員お礼状発送 11通
年会費納入お礼状発送 180通
会費納入学生会員、卒業生全員にお礼状発送 78通

③事業・経済交流委員会

- [事業]
1) 見学会開催なし
2) 例年城球会ゴルフ大会へ10,000円の補助金の支給なし
- [経済交流]
平成26年1月17日 19回新春情報交換会
参加者 124名 (内学生7名)

④会報・名簿・IT委員会

- 1) 建築同窓会会報(142号-A4版)を8,500部発行。(前号と同数)
2) 学生会員に配布。会員6401人(前年6670人)に郵送。
3) 建築学科65周年・建築同窓会50周年記念誌「50年のあゆみ」を1,500部発行。
4) 名簿の追加、訂正。
5) ホームページの修正。

⑤組織委員会

- 平成25年 5月20日(月) 第1回 平成24年度活動報告と平成25年度活動計画、平成25年6月の建築同窓会50周年記念事業と6月の総会について
- 平成25年 8月 6日(火) 第2回 建築同窓会50周年事業等の反省、今後の組織委員会の運営について
- 平成25年11月 8日(金) 第3回 第19回新春情報交換会の案内とチケット配付について
- 平成26年 3月26日(水) 第4回 平成25年度活動報告と平成26年度活動計画

平成25年度決算報告

	項目	予算額	決算額	備考
収入の部	学生会員会費	1,000,000	780,000	学生会員会費:78名¥10,000
	事業収入	1,400,000	898,000	情報交流会(参加124名内招待39名)
	理工同窓会援助金	344,400	344,400	学生会員援助金を含む
	建築同窓会年会費	1,200,000	870,000	会員167名・新規13名¥3,000・永年11名¥30,000
	寄付金	200,000	0	周年記念事業特別会計に充当
	利子及び雑収入	700	861	利子(元帳+各委員会)・他
	活動準備金より充当		280,173	
	合計	4,145,100	3,173,434	増減額¥-971,666

	項目	予算額	予算内訳	決算額
支出の部	総務委員会	540,000	会議費	160,000
			慶弔費	100,000
			学科支援費	150,000
			運営費	130,000
	財政委員会	140,000	入会案内郵送費	110,000
			振込票印刷費	15,000
			運営費	15,000
	事業・経済交流委員会	1,420,000	見学運営費	20,000
			経済交流運営費	1,400,000
	会報・名簿・IT委員会	1,620,000	印刷費	950,000
			会報郵送費	590,000
			名簿調査作成費	50,000
			ホームページ作成費	20,000
			運営費	10,000
	組織委員会	230,000	支那補助・設立準備費	140,000
			旅費	20,000
			運営費	70,000
	各委員会合計	3,950,000		3,173,334
	予備費	195,100		0
	合計	4,145,100		3,173,334

財産の部	平成25年度期首財産(平成25年4月1日)前年度繰越金		
	周年事業積立金H25	500,000	
	活動準備金	1,711,120	
			2,211,120
	平成25年度期末財産(平成26年3月31日)次年度繰越金		
	前年度繰越金	2,211,120	
	収入充当金	-280,173	
	特別会計より繰入金	2,211,404	
			4,142,351
	建築学科65周年・建築同窓会50周年記念事業特別会計		
	余剰金(協賛・寄付金4,083,000-事業費3,992,251)	90,749	
	理工同窓会周年支援金	500,000	
	一般会計より充当金	1,620,655	
			2,211,404

平成25年度会計報告承諾

名城大学建築同窓会25年度(2014年)会計報告書を帳簿、領収書等により監査したところ適正であることを認めます。

2014年(平成26年5月10日)

監事 佐藤 正義

監事 亀之内親雄

平成26年度事業計画

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

①総務委員会

事業計画(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

- 1) 学内行事の学位記授与式には学生会員に対して援助を実施する。
各ゼミの優秀な学生に対して表彰をする。
- 2) 会議の開催
 - ・通常総会 平成26年6月15日(日) 午前9:00受付 午前9:30～10:20
名城大学天白キャンパス共通講義棟南館S504教室
 - ・役員会 7～8回 第1回 4月10日(木) サテライト
第2回 5月19日(月) サテライト
第3回 6月 5日(木) サテライト
 - ・評議員会(5/19) 1回 ・正副会長会議 1～2回
 - ・総務委員会 1～2回

②財政委員会

- 1) 前年に引き続きガイダンスにて学生会員へ会費の納入をお願いする。
- 2) 同窓会として会費の納入と共に、在校生にプライバシーポリシーによる
学生の名簿を充実する取り組みをする。
- 3) 会員への年会費納入案内を発送する。
- 4) 学年会員・保護者様へ会費納入案内を発送する。
- 5) 卒業生(25年度)へ会費納入案内を発送する。
- 6) 会費納入会員へ礼状ハガキを発送する。
- 7) 財政委員会を年2回程度、開催する。

③事業・経済交流委員会

[事業]

- ・見学会等の開催を実施する。
- ・城球会ゴルフ大会へ補助金 10,000円支給する。

[経済交流]

- ・第20回情報交流会を平成26年11月29日(土)
タワー75 15階レセプションホールにて実施予定。

④会報・名簿・IT委員会

- 1) 建築同窓会会報(143号-A4版)を8,500部発行。
- 2) 学生会員に配布。会員に郵送。
- 3) 保護者に配布。
- 4) 名簿の追加、訂正。
- 5) ホームページの修正。

⑤組織委員会

- 平成26年 5月20日(火) 第1回組織委員会開催(名駅サテライト会議室)
平成25年度活動報告と平成26年度活動計画、平成26年6月15日総会の参加要請
- 平成26年 8月 6日(火) 第2回組織委員会開催(名駅サテライト会議室)
新役員との顔合わせ、建築同窓会費納入率アップに向けて
- 平成26年10月 1日(水) 第3回組織委員会開催(名駅サテライト会議室)
第20回新春改め情報交流会について、建築同窓会会費納入アップについて
- 平成27年 2月25日(水) 第4回組織委員会開催(名駅サテライト会議室)
平成26年度活動報告と平成27年度活動計画について
- 平成27年 3月25日(水) 第5回組織委員会開催(名駅サテライト会議室)
平成26年度活動報告と平成27年度活動計画について(最終)

平成26年 建築同窓会総会のご案内

平成26年度の建築同窓会の総会を下記により開催いたします。多くの同窓生のご参加をお待ちしております。

●と き 平成 27 年 6 月 14 日(日)

●ところ 名城大学 天白キャンパス内

- 9:30～建築同窓会総会 共通講義棟南館S504
10:30～理工同窓会総会 共通講義棟南館S201
11:30～講演会 共通講義棟南館S201
13:00～懇親会 タワー75 15階レセプションホール

詳細につきましては、下記の理工同窓会ホームページにおいてもごらんになれます。

理工ホームページmeijyo-rikou-dousoukai.jp/

平成26年度予算

	項目	予算額	備考
収入の部	学生会員会費	1,000,000	学生会員会費:¥10,000×100名
	事業収入	1,000,000	情報交流会
	理工同窓会援助金及び学生会員援助金	346,900	
	建築同窓会年会費	1,200,000	¥3,000×300名、永年会費¥30,000×10名
	寄付金	100,000	
	利子及び雑収入	800	
	合計	3,647,700	

	項目	予算額	予算内訳
支出の部	総務委員会	540,000	会議費 160,000 慶弔費 100,000 学科支援費 150,000 運営費 130,000
	財政委員会	180,000	郵送費 110,000 印刷費 15,000 運営費 55,000
	事業・経済交流委員会	1,020,000	見学等事業運営費 20,000 経済交流運営費 1,000,000
	会報・名簿・IT委員会	1,620,000	会報印刷費 950,000 会報郵送費 590,000 名簿調査作成費 50,000 ホームページ作成費 20,000 運営費 10,000
	組織委員会	230,000	支部援助・設立準備金 140,000 旅費 20,000 運営費 70,000
	予備費	57,700	57,700
	合計	3,647,700	3,647,700

財産の部	平成26年度期首財産(平成26年4月1日)前年度繰越金		
	周年事業積立金H25	500,000	
	H26	1,000,000	
	活動準備金	2,642,351	4,142,351

第21回 情報交換会開催のご案内

第21回情報交換会を開催いたします。
多くの同窓生のご参加をお待ちしております。

●と き 平成 27 年 11 月 28 日(土)

●ところ アイリス愛知2階コスモスの間

第20回情報交換会も平成26年11月29日に盛大に開催することができました。会員各位のご協力に感謝いたします。
第21回は上記の日程で会場を変更しての開催を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。

名城大学建築同窓会 経済交流委員会

名城大学建築同窓会会則

第1章 総 則

- (名称)
第1条 本会は名城大学建築同窓会と称する。
- (事務所)
第2条 本会の事務所は名城大学理工学部建築学科内に置く。
- (支部)
第3条 1. 本会は役員会の承認を得て原則として地域単位とする支部を設置することができる。
2. 支部細則は必要に応じ役員会の議決を経て設けることができる。
- (目的)
第4条 本会は会員相互の親睦を図ると共に地域社会への貢献、文化の振興を図り名城大学及び名城大学建築学科の隆盛発展に寄与することを目的とする。
- (事業)
第5条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
1. 会員名簿の発行
2. 会報の発行
3. 懇親会、見学会、講演会及び研究会等の開催。
4. 学生会員に対する援助
5. その他本会の目的を達成するために必要な事業。

第2章 会 員

- (組織)
第6条 本会は会員、特別会員、名誉会員を以て組織する。
- (会員の資格)
第7条 本会会員となる資格は次の各項の定めるところによる。
1. 会 員 (1) 名古屋専門学校応用物理建築分科卒業生。
(2) 名城大学理工学部建設工学科建築分科卒業生。
(3) 名城大学理工学部建築学科卒業生。
(4) 名城大学大学院工学研究科建築学専攻修了生。
(5) 名城大学大学院理工学研究科建築学専攻修了生。
(6) 前(1)～(5)項に籍を置く者で役員会で承認した者は会員に準ずる。
2. 名誉会員 本会に功勞のあるもので総会の承認するもの。
3. 学生会員 前1項の(3)、(4)在籍者。
4. 特別会員 名城大学理工学部建築学科の教職員。
5. 賛助会員 個人または団体で本会の事業を賛助するもので評議員会の承認を得たもの。
- (会費)
第8条 1. 年会費は3,000円とする。納入した会費は返却しない。
2. 60才以上の会員が永年会費30,000円を納入した場合は、以降の年会費を免除する。
3. 学生会員は、卒業後5年迄の会費10,000円を納入する。

第3章 総 会

- (総会に召集)
第9条 1. 通常総会は毎年 1 回事業年度終了後 3ヵ月以内に会長が召集する。
2. 臨時総会は評議員会または役員会で必要と認めたとき会長が召集する。
- (総会の通知)
第10条 総会の召集はその 2 週間前までに日時・場所を示した文書、又は校友会会報をもって会員及び名誉会員に通知しなければならない。
- (総会の議決事項)
第11条 総会では次の事項を議決する。
1. 事業報告、収支予算ならびに財産目録の承認に関する事項。
2. 事業計画及び予算に関する事項。
3. 重要な財産の取得、処分に関する事項。
4. 評議員会、役員会で必要と認めた事項。
5. 評議員会における選出役員を承認する事項。
- (総会の議決)
第12条 1. 総会の議事は出席会員の過半数の同意で成立する。
2. 議事の議決同意が可否同数の時は議長が決める。
3. 総会の議長は出席会員の中から選任する。
- (議事録)
第13条 1. 議長は総会の議事について議事録を作らなければならない。
2. 議長は議事録署名人を出席会員の中から選任する。

第4章 役員及び会議

- (役員)
第14条 1. 本会には次の役員を置く。
(1) 名誉会長 1 名 (7) 常任幹事 若干名
(2) 会 長 1 名 (8) 委員長 専門委員会
(3) 副会長 6 名以内 (9) 会 計 1 名(補佐1名)
(4) 監 事 2 名
(5) 支 部 長 各支部1名
(6) 学内幹事 若干名
2. 本会には相談役及び参与を置くことができる。
相談役は役員会に諮って会長が推薦する。
参与は本会の役員であった者の中から会長が推薦する。
相談役、参与は本会の諮問に応ずる。
- (役員の選出)
第15条 1. 会長、副会長、会計、監事は評議員会の推薦により選出する。
2. 名誉会長は建築学科長がこれにあたる。
3. 支部長は支部を構成する正会員の中から選出する。
4. 学内幹事は学内の会員及び特別会員の中から互選により選出する。
5. 常任幹事は会長の推薦により会員の中から選出する。
- (役員の職務)
第16条 1. 会長は本会を代表し会務を総理し評議員会役員会等の議長となる。
2. 副会長は会長を補佐し会長に事故ある時はその職務を代理する。
3. 支部長は支部を代表し支部の会務を掌理する。
4. 学内幹事は学科内の意見を集約し会との疎通を図る。
5. 常任幹事は会長の補佐として各事業を援助する。
6. 委員長は各専門委員会を代表し、委員会の会務を掌理する。
7. 会計は本会の会計事務を行う。

8. 監事は年1回以上本会の事業及び会計監査を行いその結果を総会に報告する。
- (役員の任期)
第17条 1. 役員の任期は2年とする。
2. 補欠による役員の任期は前任者の残任期間とする。
3. 役員は再任を妨げない。
4. 役員は任期中に退任しようとするときは評議員会の承認を必要とする。
- (役員会)
第18条 1. 役員会は本会の運営を円滑にするための執行機関である。
2. 役員会は名誉会長、会長、副会長、監事、各支部長、常任幹事、学内幹事、各委員長、会計、会計補佐によって構成する。尚 相談役、参与については会長が必要に応じ出席を求める。
3. 役員会は役員の過半数の出席をもって会議が成立し、出席者の過半数の同意がなければ議決することができない。尚出席出来ない時は委任状を議長宛に提出し、議決権を行使することが出来る。
- (専門委員会)
第19条 1. 専門委員会は第4条の目的と第 5 条の事業を円滑に達成するために評議員及び会員の中から若干名を選出し、これを構成する。
2. 専門委員会は次による。
(1) 総務委員会 (5) 組織委員会
(2) 財政委員会 (6) その他必要となる委員会
(3) 事業・経済交流委員会
(4) 会報・名簿・IT委員会

第5章 評議員及び評議員会

- (評議員)
第20条 1. 本会は会員の卒業年度の代表として評議員を選出する。
2. 評議員は評議員の推薦による。又は各期会員の中から選出する。
- (評議員の任期)
第21条 1. 評議員の任期は2年とし、再任を妨げない。
2. 評議員が欠けた場合の補充評議員の任期は前任者の残任期間とする。
- (評議員会)
第22条 1. 評議員会は役員及び各期評議員で構成し会長が必要と認めた場合に会長がこれを招集する。
- (評議員会の開催)
第23条 1. 評議員会は定例評議員会と臨時評議員会とする。
2. 定例評議員会は、毎年総会の1箇月前とする。
3. 臨時評議員会は役員会で必要と認めたとき、または評議員の3分の1以上の要請があったときに開催する。
4. 評議員会の招集は議案を付して10日前までに通知しなければならない。
- (評議員の議決)
第24条 1. 評議員会における議事の議決は総会に準ずる。
- (評議員の審議事項)
第25条 1. 評議員会の審議事項は、次の各号に定めるところによる。
2. 総会の付議事項に関すること。
3. 役員選出に関すること。
4. その他必要と認める重要事項。
- (基本資産)
第26条 基本資産は会費、寄付金及び助成金でこれを構成する。
- (経費の支弁)
第27条 本会の経費は基本資産ならびに事業から生ずる収入でこれを支弁する。(事業年度)
- 第28条 本会の会計年度は毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月31日に終わる。(特別会計)
- 第29条 本会に特別会計を設けることができる。

第6章 資産及び会計

第7章 雑 則

- (会則変更)
第30条 本会則は総会の議決によって変更することができる。
第31条 本会は会務運営及び第 5 条の事業遂行のために必要な委員会及び部会を設けることができる。

附 則

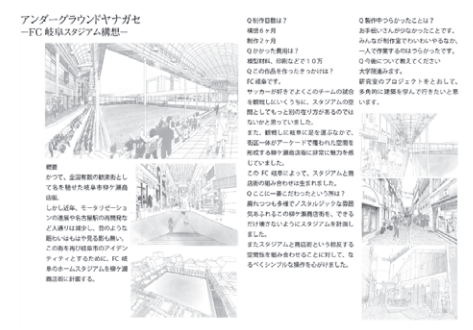
- (1) 本会則は、昭和38年9月22日より施行する。
(2) 昭和45年 9月14日会則一部改正及び訂正施行する。
(3) 昭和51年 8月 7日会則一部改正施行する。
(4) 昭和57年 9月12日会則一部改正及び訂正施行する。
(5) 昭和60年 9月 8日会則一部改正及び訂正施行する。
(6) 平成元年 9月17日会則一部改正及び訂正施行する。
(7) 平成 5年 9月18日会則一部改正及び訂正施行する。
(8) 平成 6年 9月25日会則一部改正及び訂正施行する。
(9) 平成 7年 9月24日会則一部改正施行する。
(10) 平成 8年 9月21日会則一部改正及び訂正施行する。
(11) 平成10年 9月20日会則一部改正及び訂正施行する。
(12) 平成12年10月 1日会則一部改正及び訂正施行する。
(13) 平成13年 9月30日会則一部改正及び訂正施行する。
(14) 平成18年 9月10日会則一部改正及び訂正施行する。
(15) 平成19年 9月30日会則一部訂正及び訂正施行する。
(16) 平成20年 9月28日会則一部訂正及び訂正施行する。
(17) 平成23年 6月19日会則一部訂正及び訂正施行する。

表紙・裏表紙解説



軽度の知的障がいや発達障がいを持った方が一般企業への就労を目標として訓練を行う障がい者就労継続支援施設B型を卒業設計のテーマとした。多くの支援施設は、外に閉ざされた空間にある。季節・時間が変化していく中で、時の流れを感じることなく、勤務を中心とした施設となっている。支援施設の本来の目的は、作業を行い生産することはもちろん必要であるが、それ以上に社会との関わりが必要なのではないかという疑問から設計を進めた。

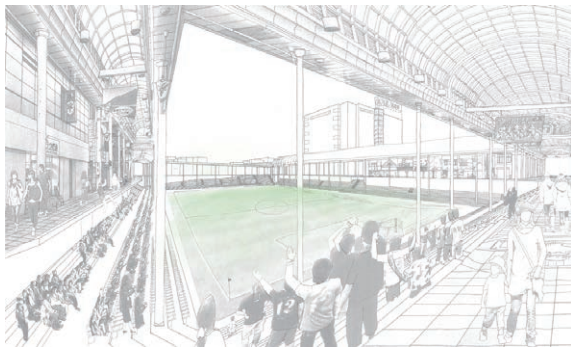
このような施設は、障がい者の人たちにとっての第2の地元となるような建築計画が必要である。それは、建築だけが解決できるものではない。周りの人の理解と、助けが必要になるだろう。自分自身3年間知的障がい者のサポートをさせていただき、人と関わることで変化していく彼らに建築ができることはなんだろうと考えていた。それは、物理的(地域との関わりを誘導する)にも精神的(地域社会の理解)にも外に開かれた施設へリポートさせていくことではないだろうか。

[illegible]

組織委員長	丸澤	良彦	(昭和52年卒)
総務副委員長	鈴木	千春	(昭和54年卒)
財政副委員長	稲垣	友彦	(平成6年卒)
事業・経済交流副委員長	伊藤	正樹	(平成14年卒)
会報・名簿・IT副委員長	三宅	賢二	(平成4年卒)
組織副委員長	佐藤	勝巳	(昭和59年卒)
相談役	加藤	哲也	(昭和38年卒)
相談役	廣瀬	敏郎	(昭和44年卒)
相談役	岩崎	征一	(昭和41年卒)
相談役	小木曾	森司	(昭和48年卒)
参 与	秦	和久	(昭和30年卒)
参 与	坂崎	日支夫	(昭和35年卒)
参 与	鈴木	寛	(昭和34年卒)

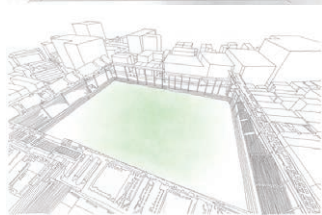
2014年度 名城大学建築学科卒業制作活動記録 (日本建築学会巡回作品、愛知建築士会提出作品)

アンダーグラウンドヤナガセ —FC 岐阜スタジアム構想— 新海 周平



概要

かつて、全国有数の歓楽街として名を馳せた岐阜市柳ヶ瀬商店街。しかし近年、モータリゼーションの進展や名古屋駅の再開発など人通りは減少し、昔のような賑わいはもはや見る影も無い。この街を再び岐阜市のアイデンティティとするために、FC 岐阜のホームスタジアムを柳ヶ瀬商店街に計画する。



Q 制作日数は？

構想 6ヶ月

制作 2ヶ月

Q かかった費用は？

模型材料、印刷などで 10 万

Q この作品を作ったきっかけは？

FC 岐阜です。

サッカーが好きでよくこのチームの試合を観戦しにいくうちに、スタジアムの空間としてもっと別の在り方があるのではないかと思っていました。

また、観戦に岐阜に足を運ぶなかで、街区一体がアーケードで覆われた空間を形成する柳ヶ瀬商店街に非常に魅力を感じていました。

この FC 岐阜によって、スタジアムと商店街の組み合わせは生まれました。

Q ここに一番こだわったという所は？

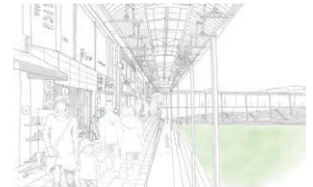
廃れつつも多様でノスタルジックな雰囲気あふれるこの柳ヶ瀬商店街を、できるだけ壊さないようにスタジアムを計画しました。

またスタジアムと商店街という相反する空間性を組み合わせることに対して、なるべくシンプルな操作を心がけました。

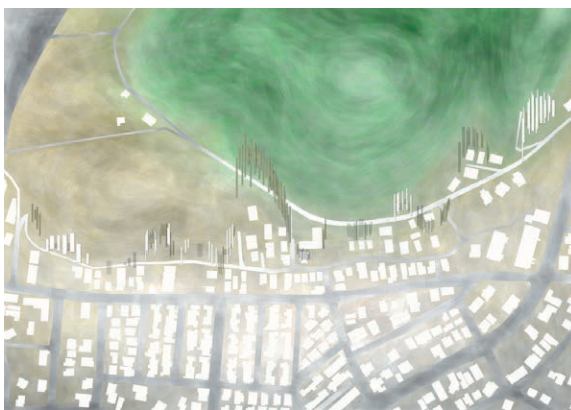
Q 製作中つらかったことは？

お手伝いさんが少なかったことです。みんなが制作室でわいわいやるなか、一人で作業するのはつらかったです。Q 今後について教えてください

大学院進みます。研究室のプロジェクトをとおして、多角的に建築を学んで行きたいと思っています。



きわに棲む 川合 智香子



概要

対称敷地は天白区の八事裏山と、宅地開発の進んできている都市のきわです。私はここで都市と山のきわの在り方を提案します。八事裏山の自然や里山環境は大変貴重な存在です。このエリアは竹林・畑・柿といった里山環境だけでなく、まちの子どもたちが通う幼稚園や散歩やランニングに訪れた人々の憩いの場となる広場もあります。今回は、このような今ある環境を壊すこと無く計画していきました。柿の木のエリアでは住宅に住む人々は、柿を屋根に登って管理、収穫し、暮らしています。竹林のエリアでは間伐した竹を燃料に、露天風呂を楽しんだり、切った竹を既存の住宅の隙間や空き地に持ってきて屋根を組み、訪れた人やここを囲む住宅の人々とおしゃべりを楽しみます。このきわは、これまで分断されていた里山とまちとを優しくつなぐ風景でたたずみ、また、人と人とも優しい関係でいられる場所です。

Q 制作日数は？

構想 6ヶ月

制作 6ヶ月

Q かかった費用は？

模型材料、印刷用紙等で 4 万円程度

Q この作品を作ったきっかけは？

私は、高校生の頃から天白区の学校に通っており、この場所に特別な思いがありました。また、この辺りは音間山（海鳴りの音が聞こえた）や島田など海にまつわる地名が多く存在しました。調査を進めると、かつてこの地が海であったことや、海につながる陸のきわに寺社が建てられたことが分かり、「きわ」という場所がもつエネルギーに興味を持ったことがきっかけです。

Q ここに一番こだわったという所は？

たくさんの帯状の屋根やデッキが長距離にわたって連続する外観は、一見すると大味な提案にみえるので、柿の収穫や間伐した竹を使った流しうめんなど、もっと小さなレベルでの人の生活について考えました。

実際に存在する場所で周辺環境も考慮しながら地に足の着いた提案を心がけました。

Q 制作中辛かった事は？

制作の面では、自分の考えを上手く言葉に出来なかったことや、自分の要領が悪いためにスケジュールどろりに行かないことが多く、力不足を感じたことが辛かったです。

Q 今後について教えてください。

来年度からは、小さな会社で住宅の設計職に就きます。

大学での設計課題とは違い、実際に建てて人に使ってもらうものなので不安でもあり楽しみでもあります。就職してからも建築としっかり向き合っていきたいです。

